

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専 商 門 業 課 実 程 務	総合情報ビジネス科 ビジネスキャリアコース	夜・通信	199.5 時間	160.0 時間	
	総合情報ビジネス科 ITビジネスコース	夜・通信	456.0 時間	160.0 時間	
工 業 専 門 課 程	モバイルアプリケーション科	夜・通信	570.0 時間	160.0 時間	
	情報システム科	夜・通信	256.5 時間	160.0 時間	
	*1 AIシステムエンジニア科 (システムエンジニア科)	夜・通信	484.5 時間	240.0 時間	
	ネットワークシステム科	夜・通信	655.5 時間	160.0 時間	
	*2 サイバーセキュリティ科 (ネットワークセキュリティ科)	夜・通信	541.5 時間	240.0 時間	
	AIテクノロジーエンジニア科	夜・通信	826.5 時間	240.0 時間	
	高度ITエンジニア科	夜・通信	969.0 時間	320.0 時間	
	建築科 建築工学コース	夜・通信	1567.5 時間	160.0 時間	
	建築科 CAD設計コース	夜・通信	1881.0 時間	160.0 時間	
	建築大工技能科	夜・通信	912.0 時間	160.0 時間	
	インテリア科	夜・通信	1339.5 時間	160.0 時間	
	電気工事科	夜・通信	1710.0 時間	160.0 時間	
	機械CAD設計科	夜・通信	1311.0 時間	160.0 時間	

文化・教養専門課程	ゲームクリエイター科	夜・通信	1396.5 時間	160.0 時間	
	ゲームエンジニア科	夜・通信	912.0 時間	240.0 時間	
	CGクリエイター科	夜・通信	1738.5 時間	160.0 時間	
	Webクリエイター科	夜・通信	1254.0 時間	160.0 時間	
	デジタルデザイン科	夜・通信	1482.0 時間	160.0 時間	
	デジタルミュージック科	夜・通信	1482.0 時間	160.0 時間	
	映像放送科	夜・通信	1425.0 時間	160.0 時間	
	音響制作科	夜・通信	1453.5 時間	160.0 時間	
(備考) *1 AIシステムエンジニア科:令和2年度入学生より学科名称変更 1年生:AIシステムエンジニア科 2年生:AIシステムエンジニア科 3年生:システムエンジニア科 *2 サイバーセキュリティ科:令和2年度入学生より学科名称変更 1年生:サイバーセキュリティ科 2年生:サイバーセキュリティ科 3年生:ネットワークセキュリティ科					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

- ・ホームページにて公表

<https://www.jc-21.ac.jp/report/shien/index.html#jitumu>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

・ホームページにて公表

https://www.jc-21.ac.jp/pdf/rijiimeibo_2021.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤 の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	【前職】NEC東芝情報システム(株)相談役	令和元年9月28日～ 令和3年9月27日	渉外担当
非常勤	【現職】(株)JC-21 教育センター 取締役	令和元年9月28日～ 令和3年9月27日	総務担当
非常勤	【前職】宮城県漁業協同組合女川町支所長	令和元年9月28日～ 令和3年9月27日	コンプライアンス 担当
非常勤	【現職】東北大学特定認定再生医療等委員会委員	令和元年9月28日～ 令和3年9月27日	広報担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
① 教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 各学科の教員によりカリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び1.で作成した改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2.で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。	
授業計画書の公表方法	・ ホームページにて公表 https://www.jc-21.ac.jp/report/shien/index.html#syllabus
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
・ 各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準として100点法で評価する。 ・ 100点法で評価した評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。 ・ 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【成績評価】

- ・出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準として100点法で評価する。
- ・100点法で評価した評価点をもとに、以下の基準で5段階法（5～1）の評定を行う。

評定 5段階	評価点 100点法	評価基準	合否
5	90以上	到達すべき目標を十分に達成し卓越した成果をあげた	合格
4	80～89	到達すべき目標を十分に達成し優れた成果をあげた	
3	70～79	到達すべき目標をおおむね達成した	
2	60～69	到達すべき目標を最低限達成したが不十分な点もみられる	
1	59以下	到達すべき目標を達成していない	不合格

【履修時間・単位の認定】

- ・学則に定められた各科目について、その評定が合格の場合、履修時間及び単位を認定する。
- ・認定する履修時間及び単位数は、学則における各学科の教育課程に示された数とする。

【学習成績、出席状況の把握】

- ・100点法による評価点、5段階法による評定点、評定平均、成績ランク、出席時間数、欠席時間数、出席率を記載した成績一覧表を、学科、学年、コースごとに作成し、成績不振および学習意欲が低下している生徒を把握する。
- ・各科目の5段階法による評定、成績ランク、出欠状況等を記載した、成績表を前期期末（10月）並びに後期期末（卒業学年：2月、進級学年：3月）に保護者宛て送付し家庭の理解や協力を求める。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

- ・ホームページにて公表
<https://www.jc-21.ac.jp/pdf/gpa.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)	
【進級認定基準】 ・学則に定める教育課程をすべて受講し、その成績評定が合格であること。 ・年間 800 時間以上履修していること。 ・毎年 3 月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。 【卒業認定基準】 ・学則に定める教育課程をすべて受講し、その成績評定が合格であること。 ・2 年課程は 1,700 時間以上、3 年課程は 2,400 時間以上、4 年課程は 3,400 時間以上履修していること。 ・毎年 2 月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	・ホームページにて公表 https://www.jc-21.ac.jp/pdf/sotsugyo.pdf

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	・ ホームページにて公表 https://www.jc-21.ac.jp/pdf/taisyaku_2020.pdf
収支計算書又は損益計算書	・ ホームページにて公表 https://www.jc-21.ac.jp/pdf/keisan_2020.pdf
財産目録	・ ホームページにて公表 https://www.jc-21.ac.jp/pdf/zaisan_2020.pdf
事業報告書	・ ホームページにて公表 https://www.jc-21.ac.jp/pdf/jigyou_2020.pdf
監事による監査報告（書）	・ ホームページにて公表 https://www.jc-21.ac.jp/pdf/kansa_2020.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士			
商業実務		商業実務専門課程		総合情報ビジネス科 ビジネスキャリアコース		○					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類								
			講義	演習	実習	実験	実技				
	2 年		昼間	2052.0 単位時間／単位	1111.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1111.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位		
			単位時間／単位								
生徒総定員数		生徒実員		うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
60 人		63 人		1 人		4 人		3 人		7 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。
成績評価の基準・方法
（概要） ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。 ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。 ・5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下 ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 （1）履修すべき全科目の評定が合格していること。 （2）年間800時間以上履修していること。 - 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。 ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。 ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。
学修支援等
（概要） ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。 ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。 ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。 ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
26 人 (100%)	0 人 (0%)	24 人 (92.3%)	2 人 (7.7%)
(主な就職、業界等) 株式会社南東北クボタ、宮城スバル自動車株式会社			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
日商簿記検定 3級	③	8人	3人
リテールマーケティング(販売士)検定 3級	③	20人	5人
日本語ワープロ検定 2級	③	10人	6人
文書デザイン検定 1級	③	4人	4人
ビジネス実務マナー検定 3級	③	25人	18人
コミュニケーション検定 初級	③	26人	22人
Microsoft Office Specialist Excel	③	25人	24人
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
61 人	6 人	9.8 %
(中途退学の主な理由) 病気・学校生活不適應、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士			
商業実務		商業実務専門課程		総合情報ビジネス科 ITビジネスコース		○					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類								
			講義	演習	実習	実験	実技				
	2 年		昼間	2052.0 単位時間／単位	826.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1396.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位		
				単位時間／単位							
生徒総定員数		生徒実員		うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
60 人		38 人		0 人		4 人		4 人		8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。
成績評価の基準・方法
（概要） ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。 ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。 ・5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下 ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 （1）履修すべき全科目の評定が合格していること。 （2）年間800時間以上履修していること。 - 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。 ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。 ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。
学修支援等
（概要） ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。 ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。 ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。 ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
16 人 (100%)	0 人 (0%)	13 人 (81.3%)	3 人 (18.8%)
(主な就職・業界等) 株式会社ヨドバシカメラ、データ・マネージメント株式会社			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
ITパスポート試験	③	16人	2人
日商簿記検定 3級	③	11人	3人
リテールマーケティング(販売士)検定 3級	③	15人	5人
日本語ワープロ検定 2級	③	15人	10人
文書デザイン検定 1級	③	4人	4人
ビジネス実務マナー検定 3級	③	13人	6人
コミュニケーション検定 初級	③	16人	13人
Microsoft Office Specialist Excel	③	16人	15人
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
38 人	1 人	2.6 %
(中途退学の主な理由) 進路変更・病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士			
工業		工業専門課程		モバイルアプリケーション科		○					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類								
			講義	演習	実習	実験	実技				
	2 年		昼間	2052.0 単位時間／単位	370.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1852.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位		
			単位時間／単位								
生徒総定員数		生徒実員		うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
40 人		20 人		0 人		7 人		2 人		9 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。
成績評価の基準・方法
（概要） ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。 ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。 ・5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下 ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 （1）履修すべき全科目の評定が合格していること。 （2）年間800時間以上履修していること。 - 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。 ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。 ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。
学修支援等
（概要） ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。 ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。 ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。 ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5 人 (100%)	0 人 (0%)	4 人 (80%)	1 人 (20%)
(主な就職・業界等) (株) オープンストリーム、(株) エイチ・エル・シー、(株) 第一コンピュータリソース、IT系企業			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
Javaプログラミング能力認定試験 2級	③	5人	4人
基本情報技術者試験	②	3人	1人
ITパスポート	②	4人	3人
Webデザイナー検定 エキスパート	③	1人	1人
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
16 人	3 人	18.8 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士			
工業		工業専門課程		情報システム科		○					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類								
			講義	演習	実習	実験	実技				
	2 年		昼間	2166.0 単位時間／単位	1624.5 単位時間／単位	114.0 単位時間／単位	969.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位		
			単位時間／単位								
生徒総定員数		生徒実員		うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
200 人		196 人		1 人		4 人		1 人		5 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) ①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。	
成績評価の基準・方法	
(概要) ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。 ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。 ・5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下 ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。	
卒業・進級の認定基準	
(概要) ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 （1）履修すべき全科目の評定が合格していること。 （2）年間800時間以上履修していること。 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。 ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。 ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。	
学修支援等	
(概要) ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。 ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。 ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。 ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
74 人 (100%)	0 人 (0%)	69 人 (93.2%)	5 人 (6.8%)
(主な就職・業界等) サイバーコム株式会社 株式会社ジャステック 株式会社シー・エス・イー 東北インフォメーション・システムズ株式会社			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和2年度卒業者にに関する令和3年5月1日時点の情報）			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
基本情報技術者試験	②	26人	17人
情報セキュリティマネジメント試験	②	6人	0人
応用情報技術者試験	②	12人	3人
ITパスポート試験	②	38人	18人
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
192 人	12 人	6.3 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、学校生活不適応、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士			
工業		工業専門課程		A I システムエンジニア科 (システムエンジニア科)		○					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類								
			講義	演習	実習	実験	実技				
	3 年		昼間	3192.0 単位時間／単位	2907.0 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1140.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位		
				単位時間／単位							
生徒総定員数		生徒実員		うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
150 人		113 人		1 人		3 人		2 人		5 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) ①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。	
成績評価の基準・方法	
(概要) ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。 ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。 ・5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下 ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。	
卒業・進級の認定基準	
(概要) ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。 (2) 年間800時間以上履修していること。 - 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。 ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。 ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。	
学修支援等	
(概要) ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。 ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。 ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。 ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。	

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																																			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																																
29 人 (100%)	0 人 (0%)	27 人 (93.1%)	2 人 (6.9%)																																
(主な就職・業界等) 東北インフォメーション・システムズ株式会社、サイバーコム株式会社、日本NCR株式会社																																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報） <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ITパスポート試験</td><td>②</td><td>12</td><td>4</td></tr> <tr> <td>基本情報技術者試験</td><td>②</td><td>27</td><td>11</td></tr> <tr> <td>応用情報技術者試験</td><td>②</td><td>11</td><td>4</td></tr> <tr> <td>データベーススペシャリスト試験</td><td>②</td><td>3</td><td>1</td></tr> <tr> <td>情報処理安全確保支援士試験</td><td>②</td><td>4</td><td>2</td></tr> <tr> <td>SEA/J 基礎コース試験</td><td>③</td><td>11</td><td>2</td></tr> <tr> <td>Javaプログラミング能力認定試験 2級</td><td>③</td><td>4</td><td>2</td></tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ITパスポート試験	②	12	4	基本情報技術者試験	②	27	11	応用情報技術者試験	②	11	4	データベーススペシャリスト試験	②	3	1	情報処理安全確保支援士試験	②	4	2	SEA/J 基礎コース試験	③	11	2	Javaプログラミング能力認定試験 2級	③	4	2
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																
ITパスポート試験	②	12	4																																
基本情報技術者試験	②	27	11																																
応用情報技術者試験	②	11	4																																
データベーススペシャリスト試験	②	3	1																																
情報処理安全確保支援士試験	②	4	2																																
SEA/J 基礎コース試験	③	11	2																																
Javaプログラミング能力認定試験 2級	③	4	2																																
(備考)（任意記載事項）																																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
116 人	5 人	4.3 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、就職、病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士			
工業		工業専門課程		ネットワークシステム科		○					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類								
			講義	演習	実習	実験	実技				
2 年	昼間	2166.0 単位時間／単位	912.0 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1425.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位				
			単位時間／単位								
生徒総定員数		生徒実員		うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
60 人		41 人		0 人		8 人		0 人		8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) ①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。	
成績評価の基準・方法	
(概要) ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。 ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。 ・5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下 ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。	
卒業・進級の認定基準	
(概要) ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。 (2) 年間800時間以上履修していること。 - 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。 ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。 ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。	
学修支援等	
(概要) ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。 ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。 ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。 ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																
16 人 (100%)	0 人 (0%)	15 人 (93.8%)	1 人 (6.3%)																
(主な就職、業界等) 株式会社ビッツ、NTTコムエンジニアリング株式会社等、ネットワーク運用・管理を行う企業。																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和2年度卒業者に係る令和3年5月1日時点の情報） <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td><td>②</td><td>10人</td><td>2人</td></tr> <tr> <td>ITパスポート試験</td><td>②</td><td>8人</td><td>2人</td></tr> <tr> <td>CompTIA IT Fundamentals</td><td>③</td><td>12人</td><td>4人</td></tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	②	10人	2人	ITパスポート試験	②	8人	2人	CompTIA IT Fundamentals	③	12人	4人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
基本情報技術者試験	②	10人	2人																
ITパスポート試験	②	8人	2人																
CompTIA IT Fundamentals	③	12人	4人																
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																			
(備考)（任意記載事項）																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31 人	1 人	3.2 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士			
工業		工業専門課程		サイバーセキュリティ科 (ネットワークセキュリティ科)		○					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類								
			講義	演習	実習	実験	実技				
3 年	昼間	3192.0 単位時間／単位	2251.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1795.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位				
			単位時間／単位								
生徒総定員数		生徒実員		うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
90 人		60 人		0 人		3 人		5 人		8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) ①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。	
成績評価の基準・方法	
(概要) ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。 ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。 ・5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下 ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。	
卒業・進級の認定基準	
(概要) ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。 (2) 年間800時間以上履修していること。 - 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。 ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。 ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。	
学修支援等	
(概要) ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。 ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。 ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。 ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
27 人 (100%)	1 人 (3.7%)	24 人 (88.9%)	2 人 (7.4%)
(主な就職・業界等) 株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー、CTCシステムマネジメント株式会社、 株式会社ネットサービス・ソリューションズ			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシート の書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)			
資格・検定名	種別	受験 者数	合格 者数
基本情報技術者試験	②	24人	6人
応用情報技術者試験	②	5人	2人
情報処理安全確保支援士試験	②	1人	1人
SEA/J 基礎コース試験	③	27人	8人
SEA/J 基礎コース試験	③	27人	8人
SEA/J 応用コースマネジメント試験	③	4人	3人
CompTIA IT Fundamentals	③	7人	6人
CompTIA Cloud Essentials	③	2人	2人
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
70 人	3 人	4.3 %
(中途退学の主な理由) 病気、学校生活不適應、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程		A I テクノロジーエンジニア科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類						
			講義	演習	実習	実験	実技		
	3 年		昼間	3192.0 単位時間／単位	2021.0 単位時間／単位	171.0 単位時間／単位	912.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
60 人		40 人	0 人	6 人	5 人	11 人			

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) ①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。	
成績評価の基準・方法	
(概要) ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。 ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。 ・5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下 ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。	
卒業・進級の認定基準	
(概要) ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 （1）履修すべき全科目の評定が合格していること。 （2）年間800時間以上履修していること。 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。 ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。 ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。	
学修支援等	
(概要) ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。 ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。 ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。 ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																			
※2019年入学生から学科名変更に伴い修業年限を変更（2年課程→3年課程）2021年度が完成年度 記載の数値は2020年3月卒業生（2年課程最終年度）のもの																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																
1 人 (100 %)	0 人 (%)	0 人 (%)	1 人 (100 %)																
(主な就職、業界等)																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																			
(主な学修成果（資格・検定等）) ※2019年入学生から学科名変更に伴い修業年限を変更（2年課程→3年課程）2021年度が完成年度 記載の数値は2021年度在籍学生のもの <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AI検定</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>ETEC クラス2 グレードB</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>4人</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	AI検定	③	12人	7人	ETEC クラス2 グレードB	③	12人	2人	基本情報技術者試験	②	4人	2人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
AI検定	③	12人	7人																
ETEC クラス2 グレードB	③	12人	2人																
基本情報技術者試験	②	4人	2人																
(備考) （任意記載事項）																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
26 人	0 人	0.0 %
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士			
工業		工業専門課程		高度ITエンジニア科				○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類								
			講義	演習	実習	実験	実技				
4 年	昼間	4218.0 単位時間／単位	3135.0 単位時間／単位	85.5 単位時間／単位	2223.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位				
			単位時間／単位								
生徒総定員数		生徒実員		うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
120 人		101 人		0 人		5 人		3 人		8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。
成績評価の基準・方法
（概要） ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。 ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。 ・5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下 ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 （1）履修すべき全科目の評定が合格していること。 （2）年間800時間以上履修していること。 - 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。 ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。 ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。
学修支援等
（概要） ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。 ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。 ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。 ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																							
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																				
10 人 (100%)	0 人 (0%)	8 人 (80%)	2 人 (20%)																				
(主な就職・業界等) 東北インフォメーション・システムズ株式会社、エリクソン・ジャパン株式会社、株式会社アテネコンピュータシステム、IT関連企業																							
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																							
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報） <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ITパスポート試験</td><td>②</td><td>5</td><td>4</td></tr> <tr> <td>基本情報技術者試験</td><td>②</td><td>9</td><td>8</td></tr> <tr> <td>応用情報技術者試験</td><td>②</td><td>8</td><td>4</td></tr> <tr> <td>データベーススペシャリスト試験</td><td>②</td><td>2</td><td>1</td></tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ITパスポート試験	②	5	4	基本情報技術者試験	②	9	8	応用情報技術者試験	②	8	4	データベーススペシャリスト試験	②	2	1
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
ITパスポート試験	②	5	4																				
基本情報技術者試験	②	9	8																				
応用情報技術者試験	②	8	4																				
データベーススペシャリスト試験	②	2	1																				
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）																							
(備考)（任意記載事項）																							

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
84 人	5 人	6.0 %
(中途退学の主な理由) 進路変更、病気、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士			
工業		工業専門課程		建築科 建築工学コース		○					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類								
			講義	演習	実習	実験	実技				
	2 年		昼間	2052.0 単位時間／単位	1083.0 単位時間／単位	313.5 単位時間／単位	1083.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位		
			単位時間／単位								
生徒総定員数		生徒実員		うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
40 人		31 人		0 人		5 人		6 人		11 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) ①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。
成績評価の基準・方法
(概要) ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。 ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。 ・5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下 ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。 (2) 年間800時間以上履修していること。 ・但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。 ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。 ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。
学修支援等
(概要) ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。 ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。 ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。 ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他								
9 人 (100%)	0 人 (0%)	9 人 (100%)	0 人 (0%)								
(主な就職、業界等) 古久根建設株式会社、阿部建設株式会社、株式会社ティーエスケー、タクトホーム株式会社等建設業界											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。											
(主な学修成果（資格・検定等）) (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)											
<table><tr><th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr><tr><td>2級建築施工管理検定</td><td>②</td><td>9</td><td>4</td></tr></table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2級建築施工管理検定	②	9	4
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数								
2級建築施工管理検定	②	9	4								
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)											
(備考)（任意記載事項） 一般社団法人宮城県建築士事務所協会主催みやぎ建築未来賞（競技設計）仙台市教育委員会教育長賞											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27 人	1 人	3.7 %
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士			
工業		工業専門課程		建築科 C A D 設計コース		○					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類								
			講義	演習	実習	実験	実技				
	2 年		昼間	2052. 0 単位時間／単位	1054. 5 単位時間／単位	28. 5 単位時間／単位	1396. 5 単位時間／単位	0. 0 単位時間／単位	0. 0 単位時間／単位		
			単位時間／単位								
生徒総定員数		生徒実員		うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
40 人		24 人		0 人		5 人		6 人		11 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) ①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。
成績評価の基準・方法
(概要) ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。 ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。 ・5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下 ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。 (2) 年間800時間以上履修していること。 ・但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。 ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。 ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。
学修支援等
(概要) ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。 ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。 ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。 ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
13 人 (100%)	1 人 (7.7%)	12 人 (92.3%)	0 人 (0%)
(主な就職・業界等) 株式会社近江建設、積水工業株式会社、株式会社石井工務店、株式会社sai総合企画等建設業界			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
2級建築施工管理検定	②	13	2
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
(備考)（任意記載事項） 一般社団法人宮城県建築士事務所協会主催みやぎ建築未来賞（競技設計）大賞受賞			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
33 人	3 人	9.1 %
(中途退学の主な理由) 病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程		建築大工技能科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類						
			講義	演習	実習	実験	実技		
2 年	昼間	2052. 0 単位時間／単位	684. 0 単位時間／単位	28. 5 単位時間／単位	1539. 0 単位時間／単位	0. 0 単位時間／単位	0. 0 単位時間／単位		
			単位時間／単位						
生徒総定員数		生徒実員		うち留学生数		専任教員数		兼任教員数	
40 人		12 人		0 人		4 人		5 人	
								9 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) ①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。	
成績評価の基準・方法	
(概要) ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。 ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。 ・5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下 ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。	
卒業・進級の認定基準	
(概要) ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。 (2) 年間800時間以上履修していること。 - 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。 ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。 ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。	
学修支援等	
(概要) ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。 ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。 ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。 ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。	

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9 人 (100%)	0 人 (0%)	9 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等)			
株式会社 ヒノキヤグループ、三井ホーム株式会社、仙南ベニヤ 株式会社、ムラカタ 建設株式会社、 株式会社 小坂橋建設、株式会社 山大、株式会社 丸健、株式会社 インダストリー白井、株式会社 ティーエスケー			
(就職指導内容)			
担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等））			
(令和2年度卒業者にに関する令和3年5月1日時点の情報)			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
丸のこ等従事者安全衛生教育修了	③	6	6
2級建築施工管理技士	②	10	3
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
17 人	2 人	11.8 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、学校生活不適応、就職、転学、海外留学、病気・けが、経済的理由、その他		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程		インテリア科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類						
			講義	演習	実習	実験	実技		
	2 年		昼間	2052.0 単位時間／単位	798.0 単位時間／単位	313.5 単位時間／単位	1140.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
単位時間／単位									
生徒総定員数		生徒実員		うち留学生数		専任教員数		兼任教員数	
40 人		34 人		1 人		3 人		8 人	
								11 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) ①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。
成績評価の基準・方法
(概要) ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。 ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。 ・5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下 ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。 (2) 年間800時間以上履修していること。 - 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。 ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。 ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。
学修支援等
(概要) ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。 ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。 ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。 ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12 人 (100%)	0 人 (0%)	12 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 丹青ヒューマネット、フーレイ、アークランドサカモト、JA、コメリ、TSK、エイジェック、マツモト家具 等			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
2級リビングスタイリスト	③	11人	5人
福祉住環境コーディネーター検定試験3級	③	11人	5人
福祉住環境コーディネーター検定試験2級	③	0人	0人
カラーコーディネーター試験3級	③	12人	10人
2次元CAD利用技術者試験基礎	③	11人	7人
2級インテリア設計士	③	3人	3人
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30 人	3 人	10.0 %
(中途退学の主な理由) 病気、学校生活不適合、進路変更 ※年度当初在学者数には年度途中他学科への転籍者1名を含むため、退学率は5/29で計上		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士			
工業		工業専門課程		電気工事科		○					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類								
			講義	演習	実習	実験	実技				
	2 年		昼間	2052.0 単位時間／単位	997.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1225.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位		
				単位時間／単位							
生徒総定員数		生徒実員		うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
60 人		53 人		1 人		1 人		5 人		6 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) ①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。	
成績評価の基準・方法	
(概要) - 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 - 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。 - 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。 5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下 - 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。	
卒業・進級の認定基準	
(概要) - 学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。 (2) 年間800時間以上履修していること。 - 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。 - 進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。 - 毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。	
学修支援等	
(概要) - 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。 - 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。 - 成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。 - 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
27 人 (100%)	0 人 (0%)	27 人 (100%)	0 人 (0%)												
(主な就職・業界等) 日本電設工業株式会社、日本リーテック株式会社、株式会社ユアテック、太平電業（株）東京地下鉄株式会社日本メックス他、電気工事系企業															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。															
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報） <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一種電気工事士</td><td>②</td><td>27</td><td>27</td></tr> <tr> <td>2級電気工事施工管理技術検定</td><td>②</td><td>27</td><td>14</td></tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	第一種電気工事士	②	27	27	2級電気工事施工管理技術検定	②	27	14
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
第一種電気工事士	②	27	27												
2級電気工事施工管理技術検定	②	27	14												
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)															
(備考)（任意記載事項）															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
51 人	4 人	7.8 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應、病気等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士			
工業		工業専門課程		機械CAD設計科		○					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類								
			講義	演習	実習	実験	実技				
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	826.5 単位時間／単位	85.5 単位時間／単位	1339.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位				
			単位時間／単位								
生徒総定員数		生徒実員		うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
40 人		36 人		1 人		4 人		4 人		8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) ①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。	
成績評価の基準・方法	
(概要) ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。 ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。 ・5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下 ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。	
卒業・進級の認定基準	
(概要) ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。 (2) 年間800時間以上履修していること。 - 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。 ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。 ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。	
学修支援等	
(概要) ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。 ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。 ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。 ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																								
7 人 (100%)	1 人 (14.3%)	5 人 (71.4%)	1 人 (14.3%)																								
(主な就職・業界等) 株式会社ソーリンク、株式会社メイテックフィルダーズ、機械設計関連企業																											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																											
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報） <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2次元CAD利用技術者試験2級</td><td>③</td><td>7</td><td>3</td></tr> <tr> <td>2次元CAD利用技術者試験1級(機械)</td><td>③</td><td>3</td><td>2</td></tr> <tr> <td>CGクリエイター検定ベーシック</td><td>③</td><td>6</td><td>3</td></tr> <tr> <td>Microsoft Office Specialist Excel</td><td>③</td><td>7</td><td>7</td></tr> <tr> <td>Microsoft Office Specialist PowerPoint</td><td>③</td><td>7</td><td>7</td></tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2次元CAD利用技術者試験2級	③	7	3	2次元CAD利用技術者試験1級(機械)	③	3	2	CGクリエイター検定ベーシック	③	6	3	Microsoft Office Specialist Excel	③	7	7	Microsoft Office Specialist PowerPoint	③	7	7
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
2次元CAD利用技術者試験2級	③	7	3																								
2次元CAD利用技術者試験1級(機械)	③	3	2																								
CGクリエイター検定ベーシック	③	6	3																								
Microsoft Office Specialist Excel	③	7	7																								
Microsoft Office Specialist PowerPoint	③	7	7																								
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																											
(備考)（任意記載事項）																											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22 人	1 人	4.5 %
(中途退学の主な理由) 就職		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士			
文化・教養		文化・教養専門課程		ゲームクリエイター科		○					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類								
			講義	演習	実習	実験	実技				
	2 年		昼間	2052.0 単位時間／単位	798.0 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	2308.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位		
生徒総定員数		生徒実員		うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
80 人		82 人		0 人		5 人		8 人		13 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) ①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。
成績評価の基準・方法
(概要) ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。 ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。 ・5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下 ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。 (2) 年間800時間以上履修していること。 ・但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。 ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。 ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。
学修支援等
(概要) ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。 ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。 ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。 ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																
23 人 (100%)	0 人 (0%)	19 人 (82.6%)	4 人 (17.4%)																
(主な就職、業界等) 株式会社東京インテリア家具、日東インダ株式会社、株式会社サンジゲン、株式会社武右エ門																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報） <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CGエンジニア検定 ベーシック</td><td>③</td><td>13人</td><td>12人</td></tr> <tr> <td>CGクリエイター検定 ベーシック</td><td>③</td><td>12人</td><td>11人</td></tr> <tr> <td>色彩士検定3級</td><td>③</td><td>25人</td><td>20人</td></tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	CGエンジニア検定 ベーシック	③	13人	12人	CGクリエイター検定 ベーシック	③	12人	11人	色彩士検定3級	③	25人	20人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
CGエンジニア検定 ベーシック	③	13人	12人																
CGクリエイター検定 ベーシック	③	12人	11人																
色彩士検定3級	③	25人	20人																
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																			
(備考)（任意記載事項）																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
66 人	5 人	7.6 %
(中途退学の主な理由) 就職、学校生活不適應、病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士			
文化・教養		文化・教養専門課程		ゲームエンジニア科		○					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類								
			講義	演習	実習	実験	実技				
3 年	昼間	3078.0 単位時間／単位	570.0 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	2622.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位				
			単位時間／単位								
生徒総定員数		生徒実員		うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
150 人		127 人		0 人		6 人		5 人		11 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) ①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。	
成績評価の基準・方法	
(概要) ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。 ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。 ・5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下 ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。	
卒業・進級の認定基準	
(概要) ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。 (2) 年間800時間以上履修していること。 - 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。 ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。 ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。	
学修支援等	
(概要) ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。 ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。 ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。 ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																							
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																				
41 人 (100%)	0 人 (0%)	33 人 (80.5%)	8 人 (19.5%)																				
(主な就職、業界等) 株式会社オーパス、株式会社ダイダロス、株式会社ゲームスタジオ、株式会社D・A・G、 株式会社サイバーコム、他 IT業界																							
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																							
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報） <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CGエンジニア検定 ベーシック</td><td>③</td><td>41</td><td>39</td></tr> <tr> <td>基本情報技術者試験</td><td>③</td><td>17</td><td>2</td></tr> <tr> <td>C言語プログラミング能力認定試験 3級</td><td>③</td><td>41</td><td>27</td></tr> <tr> <td>Javaプログラミング能力認定試験 3級</td><td>③</td><td>8</td><td>4</td></tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	CGエンジニア検定 ベーシック	③	41	39	基本情報技術者試験	③	17	2	C言語プログラミング能力認定試験 3級	③	41	27	Javaプログラミング能力認定試験 3級	③	8	4
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
CGエンジニア検定 ベーシック	③	41	39																				
基本情報技術者試験	③	17	2																				
C言語プログラミング能力認定試験 3級	③	41	27																				
Javaプログラミング能力認定試験 3級	③	8	4																				
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）																							
(備考)（任意記載事項）																							

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
136 人	5 人	3.7 %
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振、学校生活不適応、経済的理由、病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士			
文化・教養		文化・教養専門課程		C G クリエーター科		○					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類								
			講義	演習	実習	実験	実技				
2 年	昼間	2052. 0 単位時間／単位	456. 0	256. 5	1539. 0	0. 0	0. 0				
			単位時間／単位	単位時間／単位	単位時間／単位	単位時間／単位	単位時間／単位				
			単位時間／単位								
生徒総定員数		生徒実員		うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
80 人		87 人		1 人		3 人		4 人		7 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) ①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。	
成績評価の基準・方法	
(概要) ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。 ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。 ・5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下 ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。	
卒業・進級の認定基準	
(概要) ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。 (2) 年間800時間以上履修していること。 - 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。 ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。 ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。	
学修支援等	
(概要) ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。 ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。 ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。 ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他								
35 人 (100%)	0 人 (0%)	30 人 (85.7%)	5 人 (14.3%)								
(主な就職・業界等) 株式会社サンジゲン、株式会社サブリメーション、株式会社D・A・G											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。											
(主な学修成果（資格・検定等）) (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)											
<table><tr><th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr><tr><td>CGクリエイター検定ベーシック</td><td>③</td><td>32人</td><td>21人</td></tr></table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	CGクリエイター検定ベーシック	③	32人	21人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数								
CGクリエイター検定ベーシック	③	32人	21人								
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)											
(備考)（任意記載事項） 第14回TOHOシネマズ学生映画祭グランプリ受賞、学生CGコンテスト優秀賞受賞等											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
75 人	5 人	6.7 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、転学、就職		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士			
文化・教養		文化・教養専門課程		We bクリエイター科		○					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類								
			講義	演習	実習	実験	実技				
	2 年		昼間	2052.0 単位時間／単位	427.5 単位時間／単位	171.0 単位時間／単位	1596.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位		
			単位時間／単位								
生徒総定員数		生徒実員		うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
40 人		60 人		0 人		4 人		4 人		8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) ①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。
成績評価の基準・方法
(概要) ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。 ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。 ・5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下 ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。 (2) 年間800時間以上履修していること。 ・但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。 ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。 ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。
学修支援等
(概要) ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。 ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。 ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。 ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																								
20 人 (100%)	0 人 (0%)	14 人 (70%)	6 人 (30%)																								
(主な就職・業界等) 株式会社メンバーズ 株式会社ベルーナ 等 Web・デザイン関連企業																											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																											
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和2年度卒業者に係る令和3年5月1日時点の情報） <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Webデザイナー検定 ベーシック</td><td>③</td><td>20人</td><td>18人</td></tr> <tr> <td>マルチメディア検定 ベーシック</td><td>③</td><td>20人</td><td>17人</td></tr> <tr> <td>色彩士検定 3級</td><td>③</td><td>20人</td><td>14人</td></tr> <tr> <td>情報検定 情報活用試験 2級</td><td>③</td><td>18人</td><td>11人</td></tr> <tr> <td>ビジネス能力検定ジョブパス 3級</td><td>③</td><td>18人</td><td>16人</td></tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	Webデザイナー検定 ベーシック	③	20人	18人	マルチメディア検定 ベーシック	③	20人	17人	色彩士検定 3級	③	20人	14人	情報検定 情報活用試験 2級	③	18人	11人	ビジネス能力検定ジョブパス 3級	③	18人	16人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
Webデザイナー検定 ベーシック	③	20人	18人																								
マルチメディア検定 ベーシック	③	20人	17人																								
色彩士検定 3級	③	20人	14人																								
情報検定 情報活用試験 2級	③	18人	11人																								
ビジネス能力検定ジョブパス 3級	③	18人	16人																								
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）																											
(備考) （任意記載事項）																											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
46 人	4 人	8.7 %
(中途退学の主な理由) 学生生活不適應、就職、病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
文化・教養		文化・教養専門課程		デジタルデザイン科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類						
			講義	演習	実習	実験	実技		
	2 年		昼間	2052.0 単位時間／単位	142.5 単位時間／単位	142.5 単位時間／単位	1966.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
単位時間／単位									
生徒総定員数		生徒実員		うち留学生数		専任教員数		兼任教員数	
40 人		33 人		0 人		3 人		4 人	
								7 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。
成績評価の基準・方法
（概要） ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。 ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。 ・5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下 ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 （1）履修すべき全科目の評定が合格していること。 （2）年間800時間以上履修していること。 ・但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。 ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。 ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。
学修支援等
（概要） ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。 ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。 ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。 ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																															
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																												
7 人 (100%)	0 人 (0%)	2 人 (28.6%)	5 人 (71.4%)																												
(主な就職、業界等) 株式会社トッパングラフィックコミュニケーションズ、株式会社北羽新報社																															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																															
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報） <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Webデザイナー検定ベーシック</td><td>③</td><td>7人</td><td>5人</td></tr> <tr> <td>CGクリエイター検定ベーシック</td><td>③</td><td>7人</td><td>6人</td></tr> <tr> <td>色彩士検定</td><td>③</td><td>6人</td><td>5人</td></tr> <tr> <td>DTP検定ディレクション</td><td>③</td><td>7人</td><td>4人</td></tr> <tr> <td>アドビ認定アソシエイト Illustrator CC</td><td>③</td><td>6人</td><td>4人</td></tr> <tr> <td>ビジネス能力検定ジョブパス3級</td><td>③</td><td>7人</td><td>6人</td></tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	Webデザイナー検定ベーシック	③	7人	5人	CGクリエイター検定ベーシック	③	7人	6人	色彩士検定	③	6人	5人	DTP検定ディレクション	③	7人	4人	アドビ認定アソシエイト Illustrator CC	③	6人	4人	ビジネス能力検定ジョブパス3級	③	7人	6人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
Webデザイナー検定ベーシック	③	7人	5人																												
CGクリエイター検定ベーシック	③	7人	6人																												
色彩士検定	③	6人	5人																												
DTP検定ディレクション	③	7人	4人																												
アドビ認定アソシエイト Illustrator CC	③	6人	4人																												
ビジネス能力検定ジョブパス3級	③	7人	6人																												
(備考)（任意記載事項） 一般社団法人 東北映像製作社協会「映像コンテスト」応募リーフレットデザイン																															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
21 人	0 人	0.0 %
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士			
文化・教養		文化・教養専門課程		デジタルミュージック科		○					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類								
			講義	演習	実習	実験	実技				
	2 年		昼間	2052.0 単位時間／単位	541.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1681.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位		
			単位時間／単位								
生徒総定員数		生徒実員		うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
60 人		46 人		0 人		1 人		5 人		6 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) ①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。	
成績評価の基準・方法	
(概要) ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。 ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。 ・5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下 ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。	
卒業・進級の認定基準	
(概要) ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 （1）履修すべき全科目の評定が合格していること。 （2）年間800時間以上履修していること。 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。 ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。 ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。	
学修支援等	
(概要) ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。 ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。 ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。 ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）				
卒業生数		進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18 人 (100%)		0 人 (0%)	14 人 (77.8%)	4 人 (22.2%)
(主な就職・業界等) 東芝コンシューママーケティング（株）、山形パナソニック（株）、（株）トライカンパニー （株）ヨドバシカメラ				
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。				
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報）				
資格・検定名		種別	受験者数	合格者数
MIDI検定3級		③	19人	16人
マルチメディア検定 ベーシック		③	22人	17人
サウンドレコーディング技術認定試験		③	18人	18人
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)				
(備考)（任意記載事項）				

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
43 人	2 人	4.7 %
(中途退学の主な理由) 病気、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士			
文化・教養		文化・教養専門課程		映像放送科		○					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類								
			講義	演習	実習	実験	実技				
	2 年		昼間	2052.0 単位時間／単位	1026.0 単位時間／単位	85.5 単位時間／単位	1140.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位		
				単位時間／単位							
生徒総定員数		生徒実員		うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
40 人		44 人		0 人		1 人		9 人		10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) ①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。
成績評価の基準・方法
(概要) ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。 ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。 ・5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下 ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。 (2) 年間800時間以上履修していること。 ・但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。 ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。 ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。
学修支援等
(概要) ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。 ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。 ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。 ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）											
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他								
14 人 (100%)	0 人 (0%)	11 人 (78.6%)	3 人 (21.4%)								
(主な就職、業界等) 株式会社ポジティブワン、株式会社メディアプロ東北、株式会社アーム、株式会社ケイツースクエア											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。											
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報） <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>映像音響処理技術者(初級)</td><td>③</td><td>14人</td><td>5人</td></tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	映像音響処理技術者(初級)	③	14人	5人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数								
映像音響処理技術者(初級)	③	14人	5人								
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)											
(備考)（任意記載事項）											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36 人	4 人	11.1 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
文化・教養		文化・教養専門課程		音響制作科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類						
			講義	演習	実習	実験	実技		
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	826.5 単位時間／単位	85.5 単位時間／単位	1339.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位		
			単位時間／単位						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
40 人		27 人	0 人	2 人	7 人	9 人			

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) ①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。 ②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。 ③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。 ④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。	
成績評価の基準・方法	
(概要) ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。 ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。 ・5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下 ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。	
卒業・進級の認定基準	
(概要) ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。 (2) 年間800時間以上履修していること。 - 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。 ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。 ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。	
学修支援等	
(概要) ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。 ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。 ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。 ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。	

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）											
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他								
5 人 (100%)	0 人 (0%)	4 人 (80%)	1 人 (20%)								
(主な就職、業界等) 株式会社メディア22世紀、株式会社ヤマダ電機、株式会社やまや											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。											
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報） <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サウンドレコーディング技術認定試験</td><td>③</td><td>5人</td><td>4人</td></tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	サウンドレコーディング技術認定試験	③	5人	4人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数								
サウンドレコーディング技術認定試験	③	5人	4人								
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)											
(備考)（任意記載事項）											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18 人	2 人	11.1 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適応, 就職		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学 科 名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）	
総合情報ビジネス科	70,000	594,000	221,000	「その他」の欄に 計上した費用 1.施設設備費 2.教科書教材費 3.諸経費	
モバイルアプリケーション科	70,000	660,000	261,000		
情報システム科	70,000	660,000	261,000		
A I システムエンジニア科	70,000	660,000	261,000		
ネットワークシステム科	70,000	660,000	261,000		
サイバーセキュリティ科	70,000	660,000	261,000		
A I テクノロジーエンジニア科	70,000	660,000	261,000		
高度 I T エンジニア科	70,000	660,000	261,000		
建築科	70,000	636,000	286,000		
建築大工技能科	70,000	672,000	296,000		
インテリア科	70,000	624,000	296,000		
電気工事科	70,000	672,000	266,000		
機械C A D設計科	70,000	636,000	286,000		
ゲームクリエイター科	70,000	660,000	251,000		
ゲームエンジニア科	70,000	660,000	251,000		
C Gクリエイター科	70,000	672,000	256,000		
W e bクリエイター科	70,000	642,000	286,000		
デジタルデザイン科	70,000	642,000	286,000		
デジタルミュージック科	70,000	678,000	251,000		
映像放送科	70,000	684,000	261,000		
音響制作科	70,000	684,000	256,000		
修学支援（任意記載事項）					
下記修学支援は入学時のみ適用					
特別奨学金制度 経済的理由で進学が困難と認められる者で、進学目的がはっきりしており、 本校学生として相応しいと認められる者を書類選考により免除 特別奨学生…20 万円免除(45 名程度)					
試験特待生制度 本校独自の学力試験の結果により免除 75 名程度 試験特待生A…40 万円 試験特待生B…30 万円 試験特待生C…20 万円 試験特待生D…10 万円					
資格特待生制度 入学時に本校基準資格を取得している者 資格特待生A…30 万円 資格特待生B…20 万円 資格特待生C…10 万円					
親族入学制度 入学希望者の両親、兄弟姉妹が東日本航空専門学校、東北電子専門学校、 東北保健医療専門学校のいずれかの卒業生か在校生の場合、5 万円免除					

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
ホームページにて公表 https://www.jc-21.ac.jp/pdf/2020_evaluation_1.pdf		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
毎年実施している自己評価の評価結果について、客観性・透明性を高めるとともに、関係業界との連携協力による学校運営の改善を図るため、卒業生及び当該学科の専攻分野に関する業界関係者等を委員とする『学校関係者評価委員会』（定数 14 名）を設置し、学校関係者評価を行うものとする。 学校関係者評価委員会では、教育理念・目的、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受け入れ募集、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献、国際交流の 11 項目について評価を行うとともに、その評価結果や今後の改善方策についてとりまとめる。 学校は、これを自己評価結果とともにその後の改善方策の検討において活用し、教育活動及びその他の学校運営の改善を年度内に行い、専修学校教育の目的に沿った質の保証・向上に資するものとする。 今年度開催する学校関係者評価委員会（評価年度：2020 年度）は、6 月 29 日に実施し、評価結果は 7 月中旬に公表する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社ミヤギテレビサービス	令和 2 年 4 月 1 日～ 令和 4 年 3 月 31 日 (2 年)	企業等委員
宮城県産業技術総合センター	令和 3 年 4 月 1 日～ 令和 4 年 3 月 31 日 (1 年)	企業等委員
株式会社ヒノタマ	令和 3 年 4 月 1 日～ 令和 5 年 3 月 31 日 (2 年)	企業等委員
株式会社 A R C A	令和 3 年 4 月 1 日～ 令和 5 年 3 月 31 日 (2 年)	企業等委員
卒業生	令和 3 年 4 月 1 日～ 令和 5 年 3 月 31 日 (2 年)	卒業生
株式会社東北共立	令和 3 年 4 月 1 日～ 令和 5 年 3 月 31 日 (2 年)	企業等委員
株式会社アルゴグラフィックス	令和 2 年 4 月 1 日～ 令和 4 年 3 月 31 日 (2 年)	企業等委員
宮城県電気工事工業組合	令和 2 年 4 月 1 日～ 令和 4 年 3 月 31 日 (2 年)	業界団体
株式会社リード・サイン	令和 2 年 4 月 1 日～ 令和 4 年 3 月 31 日 (2 年)	企業等委員
リコージャパン株式会社	令和 3 年 4 月 1 日～ 令和 5 年 3 月 31 日 (2 年)	企業等委員
一般社団法人宮城県建築士事務所協会	令和 2 年 4 月 1 日～ 令和 4 年 3 月 31 日 (2 年)	業界団体
株式会社 J C - 2 1 教育センター	令和 3 年 4 月 1 日～ 令和 5 年 3 月 31 日 (2 年)	企業等委員

東北芸術工科大学	令和 2 年 4 月 1 日～ 令和 4 年 3 月 31 日 (2 年)	有識者
株式会社メンバーズ	令和 3 年 4 月 1 日～ 令和 5 年 3 月 31 日 (2 年)	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ・ ホームページにて公表 2019 年度学校関係者評価結果 https://www.jc-21.ac.jp/pdf/2019_evaluation_2.pdf 2020 年度学校関係者評価結果 (2021 年 7 月中旬公開予定) https://www.jc-21.ac.jp/pdf/2020_evaluation_2.pdf		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ・ 学校基本情報 https://www.jc-21.ac.jp/ ・ 刊行物：入学案内 https://www.jc-21.ac.jp/mail/siryo.html より資料請求 電話：022-224-6501 より資料請求
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		222 人	210 人	227 人
内 訳	第Ⅰ区分	110 人	114 人	
	第Ⅱ区分	65 人	53 人	
	第Ⅲ区分	47 人	43 人	
家計急変による支援対象者（年間）				－
合計（年間）				228 人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0 人
----	-----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0 人	0 人	0 人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0 人	0 人	0 人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	—	—	0 人
「警告」の区分に連続して該当	—	0 人	—
計	—	—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0 人	前半期	0 人	後半期	0 人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0 人
3 月以上の停学	0 人
年間計	0 人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	12人	0人	21人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	11人	11人	13人
計	15人	11人	28人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。